

(西暦) 2020年 4月 13日

当院に入院・通院されていた患者さんのうち、

- ・炎症性腸疾患・消化管ポリポースにおける腸管上皮細胞株の作製ならびにその癌化機構解明
- ・消化器組織細胞の培養法確立と遺伝子変異を基にした増殖因子感受性の検討
- ・膵嚢胞性疾患の遺伝子変異を標的とした新規治療法の開発
- ・消化器慢性炎症性疾患における遺伝子変異の検索
- ・がん細胞培養を用いた最適な治療薬選択法の開発
- ・EUS-FNA 検体を用いた膵腫瘍細胞に対する薬剤感受性の検討
- ・超音波内視鏡穿刺吸引術検体からの腫瘍組織培養の樹立と In vitro 薬剤感受性の解析

の研究にご協力頂いた患者さんに、新規研究へのご協力をお願い

研究責任者 所属 坂口光洋記念講座(オルガノイド医学) 職名 教授

氏名 佐藤 俊朗

連絡先電話番号 03-5363-3790

実務責任 所属 坂口光洋記念講座(オルガノイド医学) 職名 教授

氏名 佐藤 俊朗

連絡先電話番号 03-5363-3790

このたび当院では、慶應義塾大学病院に入院・通院されていた患者さんのうち、上記の研究へのご協力を頂いた患者さんから樹立した細胞を用いて新規の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、佐藤俊朗までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

西暦 2011 年 6 月 27 日から現在までの間に、慶應義塾大学病院消化器内科、一般消化器外科にて治療・検査のため通院あるいは入院し、下記研究への協力を同意され検体提供を行った方。

- ・炎症性腸疾患・消化管ポリポースにおける腸管上皮細胞株の作製ならびにその癌化機構解明
- ・消化器組織細胞の培養法確立と遺伝子変異を基にした増殖因子感受性の検討
- ・膵嚢胞性疾患の遺伝子変異を標的とした新規治療法の開発
- ・消化器慢性炎症性疾患における遺伝子変異の検索
- ・がん細胞培養を用いた最適な治療薬選択法の開発
- ・EUS-FNA 検体を用いた膵腫瘍細胞に対する薬剤感受性の検討
- ・超音波内視鏡穿刺吸引術検体からの腫瘍組織培養の樹立と In vitro 薬剤感受性の解析

2 研究課題名

承認番号 2015-0082

研究課題名 多施設多領域における消化器癌解析

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部坂口光洋記念講座(オルガノイド医学)

共同研究機関

東京大学医学部 腫瘍外科学

東京大学医学部 肝胆膵外科

東京医科大学 消化器内科

研究責任者

渡邊 聡明 (教授)

國土 典宏 (教授)

糸井 隆夫 (教授)

既存試料・情報の提供機関

大塚製薬藤井記念研究所

(消化器癌治療標的の探索)

ケンブリッジ大学 Department of Genetics

(発癌メカニズムの探索)

山口大学医学部システムズ再生・病態医化学

(腫瘍化におけるメカノシグナルの役割)

Case Western Reserve University School of Medicine, Department of Genetics & Genome Sciences

Peter C. Scacheri, (associate professor)

(大腸腫瘍化におけるエンハンサーの役割)

Academic Medical Center, Lab for Exp. Oncology and Radiobiology

Jean Paul Medema (Professor)

(鋸歯状腺腫の腫瘍化メカニズム)

(他、共同研究機関は随時更新・追加いたします。)

4 本研究の意義、目的、方法

従来の消化器癌の研究には、細胞株と呼ばれる癌細胞が使用されています。この細胞株には実際の癌とは違った部分も多くあるため、研究で開発された新薬が実際の臨床上で思ったような効果が見られないことも少なくありません。

私たちは、培養皿の上で消化器臓器の細胞を培養することに成功しています。この技術は腫瘍性の病変にも応用でき、これまでの間に多くの患者さんからの協力を得て、臨床での腫瘍と同様の性質を持つ細胞の樹立に成功しています。

そこでわれわれはこの培養細胞を、共同研究契約を締結した様々な共同研究施設に分譲し、消化器癌研究に役立てたいと考えています。多くの研究施設での癌研究にこの培養細胞を使用することで、現在の消化器癌研究を大きく推進させることができると期待しています。提供先機関は、上記

3に挙げる機関であり、国内・海外の機関に提供を行います。提供先機関は随時このページにて更新を行います。

5 協力をお願いする内容

別の研究課題（上記）で頂いた消化器組織から作製した培養細胞を用います。そのため、この研究への参加に伴う身体の危険性は全くありません。これらの培養細胞を、共同研究契約を行った共同研究機関（上記3に記載）に分譲し消化器癌に対しての研究に使用します。分譲の際には、年齢・性別・治療歴・病理組織型・臨床病期・判明した癌関連遺伝子変異リスト・採取部位の情報も提供いたしますが、個人を特定できるような氏名や住所などの個人情報はずべて削除し、匿名化した上で符号のみを付加し分譲します。符号と個人を結びつける対応表は提供せずに当院で厳重に保管するため、提供先では匿名化後はどのサンプルがどの患者さんから頂いたものかわからないため、分譲後にそのサンプルから個人を特定することが不可能となります。

6 本研究の実施期間

西暦 2015年 7月 1日～ 2025年 3月 31日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、年齢・性別・治療歴・病理組織型・臨床病期・判明した癌関連遺伝子変異リスト・採取部位のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの培養細胞は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と、匿名化した培養細胞を結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また研究計画書に記載された所定の時点で完全に抹消し、破棄します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

坂口光洋記念講座(オルガノイド医学)教授 佐藤俊朗

電話 03-5363-3790（平日9:00-17:00）

以上